# おわりに

## 絶滅の危機に瀕する日本の野生植物

魚沼市の自然資質を明らかにし、これを保全することの背景には、日本に自生する約7,000種（亜種及び変種を含む、以下同様）類の維管束植物（種子植物・シダ植物）のうち、1,779もの植物が絶滅の危機に瀕している（2012環境省）という事実がある。この数字には含まれない、すでに絶滅した植物も42 種あり、また準絶滅危惧種が297、情報不足が3種と、何らかのかたちで保全が必要である種は2,000を超えている。新潟県においては667種類の植物が、絶滅危惧種とされる。

### 明らかになる魚沼の自然

魚沼市では2010年より、どう貴重な自然を守り、利用するかを検討するために、環境保全調査委員会を組織した。1年に渡り議論と作業を重ね、市内の植物調査が一部の地域を除いてほとんど行われておらず、まずは自然環境の特性を明らかにすることが必要であるとの結論から、2011年度より現在まで、3年に渡って行政と市民、自然関連団体が協力して調査が行われた。今年度より鳥類と昆虫類の調査も加わり、本年度に植物586種、鳥類60種、昆虫78種（トンボ類39種、チョウ類39種）を確認したという成果が報告された。植物のみだが、これまでの調査で延べ916種が確認されたことになり、徐々に魚沼市の自然環境が明らかになってきている。一方、「はじめに」で指摘されているとおり、これまでの調査からは、新潟県の絶滅危惧種667種類のうちのうち45種類が確認されたに過ぎない。このことから、さらなる調査を行うことはもちろん、環境、時期、場所を考慮した調査地の選定が必要だと考えられる。

### 日本における絶滅危惧植物の現状

植物は特に湿地や島嶼、人の手が入らなくなったことで環境が変化した里山、また帰化植物の問題など、人間の活動の影響が大きい環境での減少が著しく、現在は自然の状態の1,000倍のスピードで生物が絶滅していると言われる。意外に思われるかもしれないが、園芸的に栽培されることの多いキキョウやエビネ、シデコブシなども絶滅危惧種に指定されている。これらは栽培個体や栽培品種は多いものの、北海道から九州まで分布するキキョウの自生は推定で20,000個体であり、このまま減少が続けば100年後の絶滅確率は100%、エビネの自生は20,000個体、シデコブシは10,000個体と、園芸的な採集や開発などによって激減し、きわめて少数が自生しているに過ぎない。私の専門とするツツジ属でも、採集などによってムニンツツジは小笠原の父島に1株、チョウセンヤマツツジは対馬に数十株

が残っていると言うきわめて危うい状況である。

生物が失われることは、生態系の維持やヒトの生存環境の劣化につながるだけではなく、食料や燃料、薬等々未知の可能性を秘めた生物資源の喪失を意味し、私たちの感性の源となっている日本独自の文化や芸術、また園芸の世界も失われてしまう危険性もはらんでいる。

是非、魚沼市の自然環境調査でも、魚沼市だけでなく、日本のかけがえのない自然環境を守っているという高い意識を持っていただきたい。

日本植物園協会の保全活動

日本植物園協会では、各地域の植物園が保全の拠点となって市民団体、行政や研究機関等と連携して効率的に生息域外保全を進める「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を組織し、2013年5月までに1,115種の絶滅危惧種を収集、保存している。これは、環境省が2012年に発表したレッドリストに上げられている1779種類の62.7%にあたる数字で、近年植物園でも植物多様性の保全に重要な役割があることを認識し、積極的に自生地での種子による絶滅危惧植物の収集が行われていることによる。

一また、普及・啓発活動として、展示、シンポジウム、ワークショップ、保全ニュースレターの発行、「日本の植物園における生物多様性保全」の出版などの事業も行っている。

現在は、名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で示された「世界植物保全戦略2011年～2020年」に基づき、「植物多様性保全2020 年目標」を定め、「わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と、有用植物資源の系統保存の中核として貢献する」ことをミッションに、2020年までに日本産絶滅危惧植物種の75％（1,335種）の生息域外保全を達成すべく活動を推進している。

魚沼市の自然環境調査を日本全体の成果とする

継続的な調査によって、魚沼市の植物相調査によって自然資質が明らかになりつつあるが、その一方で、どう自然を守って行くかも議論される必要があると考えている。今後、1）　保全の優先順位の明確化、2）市民を対象にした保全技術講習会等の開催、3）絶滅危惧植物の生息域内保全および域外保全（種子収集と保存）にまで発展することで、魚沼市が日本全体の絶滅危惧植物の保全活動にも貢献していただければと考えている。

2014年3月

魚沼市自然環境保全調査委員会　副委員長
新潟県立植物園　副園長
（公社）日本植物園協会 植物多様性保全委員会
倉重祐二

魚沼市自然環境保全事業

# 平成25年度魚沼市自然環境保全調査報告書

－自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査－

2014年3月31日　発行

編　　集　魚沼市環境課環境対策室　TEL 025-792-9766　FAX 025-792-9500

監　　修　元新潟大学教授　石沢　進

新潟県立植物園副園長　倉重祐二

魚沼市教育委員会教育次長　富永　弘

発　　行　魚沼市（魚沼市小出島130番地1　〒946-0011）

調　　査　特定非営利活動法人　野外教育学修センター　魚沼伝習館

現地調査

○調査員（調査リーダー）

（植物）大原志津子　小熊敏一　貝瀬正俊　桜井昭吉　佐藤郁子　高橋新一

武藤光佳　和田齊

（鳥類）桑原和寿　佐藤武　角屋禮士　深澤和基　柳瀬昭彦

（昆虫）トンボ類：坂大守　横山正樹　チョウ類：井口史男　川又信彦

○市民ボランティアのみなさん

協　　力　魚沼自然大学、小出野鳥の会、魚沼昆虫同好会、新潟県立植物園、社会福祉法人わかあゆ社、魚沼・小千谷地域理科教育センター、魚沼市教育委員会

口絵イラスト　桐生誠

印　　刷　株式会社　アートプリント角越